

宿縁

六月号

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号

浄土真宗
本願寺派

中原寺

TEL 〇四七—三七二—〇二九二
FAX 〇四七—三七二—〇二六二

生きるための手段 でなく目的を知る



法事をつとめる意味って考えたことありますか。

それはお寺から案内があるから、亡くなった人を供養するためなど、昔からの慣習ぐらいにしか思っていない人の一般的解答はこのようなものではないでしょうか。また、単に伝わることへの拒否が強い現代人には面倒で億劫なことになっています。

そこで「法事」とは、仏法の事、つまり釈尊がさとった仏(真理)の教えを私が聞かせていただく場と受け止めてください。

なんでもそうですが「場」というのはなかなか自分で作り出せないものです。きっかけ、つまり縁がないとその場に出会うということはありません。その縁を与えてくれるものが身近な亡き人とのつながりであります。

私たちはいつも亡き人から教え導かれていっているのではないかと思います。人生とは？生きる意味とは？人間に生まれたということとは？死ぬということとは？そのいずれも亡き人からの問いかけによるものです。だから人はもし死ぬということがなかったら、人生に何の意味も見いだせない生きて屍ではないかと、逆に死なないことに恐ろしさを感じます。

人間は日常立ち止まることがないと本当の世界が見えません。立ち止まって背筋を伸ばし、静かに目を閉じて呼吸を整える場を持つことによつて己のありようが見えてきます。あわただしく流れていく日々の営みの中でひととき、仏壇の前に座るといふ姿こそ、一つの大切な場でもあります。

あたりまえと思っていたことが、一つとしてあたりまえなどではなかったこと。自分の思いで生きてきたことが、いかに小さな一部分しか見ていないで分かったように生きてきたかが少しづつ知らされます。

日々の生活について、仏教では生活を「生」と「活」とにわけます。活とは職業を

持ち収入を得て食べていくこと。言ってみれば食べなければ生きていけないので、人間は生まれてこのかた幼稚園に通ったり、宿題をしたり、受験勉強をしたり、就職をして職業に就くというのは大部分が活のためです。しかし一番底に人間は生という問題があります。食べていけば死なないのか、食べていけば老いなのか、食べていけば病気になるのか。それらはみな生きる手段です。考えてみると私たちは生まれてより死ぬまで、活の問題で一生存往左往するのです。活の問題というのは十分幸せになっても、それで満足だ、よかった、いつ死んでも構わないということになりません。どうしても満たされないものが残ります。それは生が充実していかないからです。

活だけでは本当によかったという感謝と使命感というものが出てきません。それは生の解決をして、そこから本当の生き甲斐が出てくるのだと思います。

浄土真宗は「往生浄土の道」を教えます。往生とか浄土という、食べるための活の世界(世間道)しか知らないものには死んでから先のことか、死んでからゆく場所ぐらいにしか思いませんがまったく違います。

つまり往生とは、生の行き場の解決です。人生の根本問題の解決です。つまり人間に生まれた意味、生きていくことの本当の生き甲斐(価値)、いのちの方向に目覚めるということとです。

そして浄土とは何か。仏の大地です。地とは大きな基盤、大きな依りどころ、そこで私の生活が成り立つという地盤です。今までは世間道を行ったり来たりしていて本当に地

盤を持たなかった、私を支える大地に気づかなかった。その大地(浄土)には、先ず主人公がいるのです。阿弥陀仏というお方がおられるのです。私たちはここに始めて主人を持ちます。今までは何をやらうと自分の勝手でしたが仏の大地に出ると主人公ができます。

「仏法をあるじとし、世間を客人とせよ」は、蓮如上人のお言葉です。世間のあるじは私です。私とはエゴ(煩惱)です。生まれてよりエゴの道を歩いていきます。だから四苦(生・老・病・死)の始まりは「生苦(しょうく)」です。そこで仏法を心のあるじとせよ、と教えます。つまり生の解決がなければ人生生活を営むとは言えないぞ、とあるじ阿弥陀仏は十方に常に呼びかけ願い通しなのです。

仏の大地に出遇うと、活の生活とは、エゴから抜け出せない生き方、損か得か、勝つか負けるか、偉くなりたいだけが人生だと思っていた私のはからいが果たしてそうなのかと心の転換が起こるのです。

浄土真宗で一番大切なことは、「廻向(えこう)」と「廻心(えしん)」です。阿弥陀さまの常の呼びかけが、私に届いて廻心として花開き新しい世界を展開します。仏法の教えを聞くことによつて、見失っていた仏さまのほらき、願いに気づくこと、生かされているのちに目覚めること、それが廻心です。

それは、今まで自分で生きてきたと思っていたものが、あるじの仏さまに南無して生きていく人生に転換することです。

そこにほんとうに生きるということが成り立ち、これまでの私の活だけのための人生でなくて、さとの永遠のいのちの生を果たすべく意味と目的が見つかることです。

【寺灯雑記】

○姜尚中先生が来寺ご講演

5/22

青葉につつじの色が映える好天のもと、午前に親鸞聖人降誕会、午後に門信徒総永代経法要が勤められました。

ご講師は一昨年秋の第26回文化講演会で「心の力」と題して講演された姜尚中先生を再びお迎えいたしました。著名度とそのお人柄から幅広いファン層で知られる姜尚中先生にお寺へお越しいただきましたが、当日は数十分前までTBSテレビの生番組に出演され、ブラウン管のお姿がそのまま中原寺の本堂にて目の前でお話しされていることに不思議な気持ちを感じました。

午前中は降誕会に続き「生き甲斐について」、午後は永代経法要に引き続き「幸福について」の講題でお話しいただき、静かな語り口の中にも閉塞感漂う現代社会への提言や価値観の転換の重要さなど熱い思いを大勢の聴衆に伝えられました。仏教の教えを聞くということは同時に現代の社会にてらしあわせて、一つひとつ御教えに問うていくことであるとの大切さを学びました。

また参詣者からの質問にも丁寧にお答えくださって、終了後の懇親の場にも親しくお付き合いただきたくなど、先生には丸一日大変ありがたいご縁を結んでいただきました。

文化講演会の時は山崎製パン企業年金基金会館の会場に入りきれない人が多く出ましたが、このたびもお寺の本堂に入れずに聞法会館のスクリーンに映し出された映像で講演を聞いた人が多くありました。

○千葉組仏壯連盟研修会に出席

5/26

千葉組仏教壮年会連盟の総会、研修会が千葉市教育会館で開催され県内より総勢46名(当寺から6名のメンバー)が出席しました。

研修会では左記の仏壯連盟の綱領にうたわれている、
「われわれ仏教壮年は、自らの生き方を親鸞聖人のみ教えに聞き、ともにお念仏申す朋友の輪を拡げ、心豊かに生きる社会の実現をめざします。」

をもとに、講師菅原智之師が「お浄土に仏として生まれるということ」また「お念仏をいただく者としての社会との関わり」というテーマでお話になりました。

行動ある聞法者として壮年会の未来が問われているところから、終了後はわがメンバーも酒席の場で意見が盛り上がりました。

○「乙女座」劇の稽古に入る

6/8

恒例の夏の一大イベント「門信徒ファミリーパーティー」は今夏も7月31日に開催されますが、その中でも素人劇団「乙女座」の劇は楽しみです。

出し物は「蓮如上人物語③」で今回が完結編。河合功さんによる脚本が出来上がり、このほど役者さんが揃って第1回目の顔合わせがありました。

本番の公演に向けていよいよスタートです。この日は脚本の読み合わせでしたが、本番まで以後毎週金曜日夕方から計7回の稽古をすることになりました。演技指導は先般亡くなった演出家蜷川幸雄さんのように厳しい注文と指導が待たれている?とか。どうぞご声援ご期待ください。

【ご案内】

☆夏の門信徒ファミリーパーティー

*日時：七月三十一日(日) 二時始

・第1部 インドネシア楽器演奏

・第2部 各種模擬店・盆踊り・ゲーム
抽選会など

「あえてよかつたね」の合言葉のもと、門信徒が家族ぐるみで交流して楽しむお寺の夏祭りは今年25回目を迎えます。

☆第21回夏休み子ども合宿募集!

*日時：八月二十日(土)

参加費：3,000円

対象：小学生、園児

次世代を担う少年少女がお寺に泊まって合宿生活を体験します。

高学年の子は低学年の子の面倒を見、低学年の子はお兄ちゃんやお姉ちゃんからいろいろなことを教わって楽しい経験をする。

少子化の時代だからこそ仏さまの教えを通してたくさんのことを学んでください。

☆文化講演会の講師に末木文美士先生

*日時：十月二十九日(土) 一時半

・会場：山崎製パン企業年金基金会館

・講師：末木文美士先生

(東京大学・国際日本文化研究センター名誉教授)

・著書：「日本仏教史」・「日本宗教史」

・「親鸞」・「日本の思想を読む」ほか。

第28回文化講演会は講師に仏教学者で知られる京都在住の末木文美士(すえきふみひこ)先生をお迎えして開催します。

【法座・行事のご案内】

○常例法座 六月十九日(日) 一時

法話：山田義俊師(新宿林光寺住職)

今回は築地本願寺合唱団「楽友会」のみなさん(約20名)による音楽礼拝と仏教讃歌のコーラスから始まります。

どなたも楽しみにお出かけください。

○和讃に学ぶ 六月二十五日(土) 三時

(高僧和讃) 前任職

○婦人会法座 七月二日(土) 一時

歎異抄十四条とヨガ体操

○ファミリーパーティー実行委員会

七月三日(日) 一時半

○壮年会法座 七月三日(日) 三時

テーマ「社会をつくる仏教」住職

テーマをもとに話し合いを行います。

○いのちの居場所を考える会

七月七日(木) 十時半

【六月の掲示板のことば】

あなたは 人生に何が起ころうと

生きてゆく依り所がありますか